(1949).　8) 鈴木時夫：技術研究 1：77-90 (1949).　9) ——：東亜の森林植生 (1952).　10) ——：北アルプスの自然 219-254 (1967).　11) ——：森林立地 8 (1)：1-12 (1967).　12) ——：白山の自然 114-156 (1970).　13) 山崎　敬・植松春雄：植研 38 (9)：280-288, (11)：399-348 (1963).

○ペルー・アンデスのラン（前川文夫・橋本　保）　Fumio MAEKAWA and Tamotsu HASHIMOTO: Some orchids from Peruvian Andes (Plate IV-V)

東京大学東亜関連植物調査団（環太平洋班）（第一次）が 1965 年から翌年にかけてペルーで採集したラン科は理学部附属植物園（小石川植物園）で栽培されており，開花したものを調べてみると珍しい種類が少くない。その中の 6 種をここにカラー写真で紹介する。ここでいうアンデスは，山脈の低い部分にある熱帯林も含んでいる。種の同定についてはハーバード大学 Leslie A. Garay 博士に負うものがあり，ここで感謝の意を表したい。

The following six species of orchids which were collected by the members of the First Botanical Expedition to the Andes, University of Tokyo, 1965-'66, are now in cultivation in the Botanical Gardens of the University. For the studies and determinations on certain species, we are much indebted to Dr. Leslie A. Garay, the curator of the Orchid Herbarium of Oakes Ames, Botanical Museum, Harvard University.

Xylobium bractescens (Lindl.) Kränzl., Pl. IV. Upper left.

Collected by F. Maekawa, M. Ono, T. Hashimoto and M. Wada at 31 km west from the pass of 'Calla Calla', between Leimebamba and Balsas, ca. 2320 m alt., Dept. Amazonas. Photographed on Dec. 4, 1971.

この種は Charles Schweinfurth: Orchids of Peru (Fieldiana 30)：628 (1960) に記載はあるが標本の引用はない。その記載と種への検索はハーバード大学オーキッド・ハーバリウムにあるタイプ標本の写真に基づく点があるらしく，検索表 (p. 627) で 'scape much longer than the leaves' と導かれている。このため橋本が上記ハーバリウムを訪れる迄私達は種名を決し得なかった。タイプ標本は栽培株によって作られており，花序と葉が別の時期にとられている。そのため混乱を生じた。エクアドル（タイプ）のほか，ペルーの Junín で採られた記録があるが図や写真が公表されたことはなかった。写真の個体は花茎約 40 cm 長，偽球茎は楕円状梨形～楕円形で 2 葉（まれに 1 葉）が着く。葉は長さ 30～45 cm，巾 3.3～7 cm で下面に顕著な 3 脈，ときにさらに 2 脈が葉縁近くに不明瞭だがみえる。葉柄は長い方のが約 8 cm（タイプ標本では短く不明瞭）。1970 年は花序に約 17 花咲いた (Lindley の原記載では 5～7 花)。以上の点はすでに公にされた記載とずれるところだが，たった 1 個の標本によって認

識されれば，当然起り得る相違点であろう。

Xylobium scabrilingue (Lindl.) Schltr., Pl. IV. Upper right.

Collected by F. Maekawa, M. Ono, T. Hashimoto and M. Wada in Chanchamayo valley, Dept. Tarma. Photographed on Dec. 28, 1970.

この学名は上記 Schweinfurth (ibid. p. 635) によって *X. squalens* (Lindl.) Lindl. (これも Fieldiana **33**: 55 (1970) で *X. variegatum* (Ruíz & Pav.) Garay & Dunsterville と訂正された) の異名にされている。しかし花の形，色なども異なるまったくの別種である。オーキッド・ハーバリウムには Junín 産の花序だけの標本が1枚あり，これを Michael Wirth が正しく同定している。

Sobralia rosea Poepp. & Endl., Pl. IV. Lower left & right.

Collected by T. Hashimoto and M. Wada at 15 km from Quincemil, the road to Marcapata, Dept. Cuzco. Photographed on Apr. 9, 1971 (at the Botanical Gardens) & Jan. 30, 1966 (at native habitat).

この種はコロンビア，エクアドル，ペルーに知られている。花は径 10 cm ほどになり，属の中でも美しい方の種であるが，残念ながら2日間持ちこたえられない。これは属全体を通していえることで，このため *Sobralia* 属はよく調べられていないのが現状である。茎は強壮で高さ 1～2 m になる。花序はやや垂れ気味で，大形の包葉が目立つのが種の判別点にもなる。

Sievekingia peruviana Rolfe ex C. Schweinf., Pl. V. Upper left & right.

Collected by T. Hashimoto and M. Wada in tropical forest, between Quincemil and Puente Río Inambari (59.5 km from Quincemil, 1.7 km to Puente Río Lolomayo), ca. 400 m alt., Dept. Cuzco. Photographed on Jan. 7, 1972.

この属は Stanhopeinae Bentham (Gongorinae Schltr.) に含められている。Stanhopeinae は熱帯アメリカに約20属あるが，園芸上 *Stanhopea* と *Gongora* の2属がよく知られている。しかし *Sievekingia* 属はむしろ Maxillariinae-'Lycaste alliance' に近い点もあり，上記2属の特異な花型とは違ってみえる。つまり唇弁を除いた他の花被片が比較的似た形のグループとして認識できる。野外でこの属の花に出合うことはめったになく，栄養体をみただけでは属の判定がむずかしい。Paul H. Allen も Flora of Panama の Orchidaceae (Ann. Mo. Bot. Gard. **36**: 378 (1949)) のこの属の説明の中で 'They are seldom collected, perhaps because they are often mistaken for immature *Stanhopea* seedlings.' と記している。Schweinfurth の原記載とこれに伴う図は乾燥標本によったもので，生品でみられる偽球茎の目立ったうね (7-9) は記されてなく，逆に生品では判別し難い花被片の脈がその図で強調されている。花色の記載もない。原記載のとき引用された Chan-

chamayo 渓谷の 2 地点の標本以後採集されたのはこれが初めてである。この種の花も 2 日間持つのがやっとで，東大植物園の温室では今年一月 2 つの鉢に 3 つの花序を日を違えて得ることができたが，いずれも 2 日目はアリに喰いちぎられていた。採集してから 6 年目にはじめて咲いた。花径は約 2 cm，がく片はあお白い黄色，花弁は先の方が濃黄色で基部は黄白色，唇弁は橙黄色，ずい柱も橙黄色である。葉は最大のもので柄の長さ約 3 cm，葉身が長さ 17.5 cm，巾 6 cm，やや薄い革質で，表面に白い短毛を散生，裏面および表面の基部と葉柄，それに子房に黒褐色の鱗屑を散生する。がく片にもあるがこれは斑絞状にみえる。

この植物はさきに橋本が記載した *Pleurothallis Fumioi* (Journ. Jap. Bot. **46**: 173 (1971)) と同じ木に着生していた。

Brassia Keiliana Rchb. f. ex Lindl., Pl. V. Lower left.

Collected by F. Maekawa, M. Ono, T. Hashimoto and M. Wada in subtropical thicket near Ayna, ca. 1750 m alt., Dept. Ayacucho. New to Peru! Photographed on Dec. 21, 1970.

ベネズエラとコロンビアに知られていたものである。花径約 8 cm で観賞価値もある。1971 年 12 月に咲いた花は色が淡く，かえって上品な感じがした。そしてこの写真と違って唇弁は反巻しなかった。すなわち基部からほぼまっすぐにのび，ずい柱と約 45 度の角度となった。

Dichaea brachypoda Rchb. f., Pl. V. Lower right.

Collected by T. Hashimoto and M. Wada in tropical forest, ca. 20 km from Quincemil, the road to Marcapata, Dept. Cuzco. New to Peru! Photographed on Jan. 10, 1972.

径 4 mm 足らずの目立たない白花をつける着生ランである。わりに大きい包葉のかげにかくれた部分に短い柄の子房があり，その表面に腺毛が圧されている。花後子房がふくらみ目立った姿の果実となる。葉の先端や唇弁の先のふちには低倍率の顕微鏡ではじめてわかるほどの毛があり，これは類似種との区別に役立つ。

(東京農業大学育種学研究所・東京大学理学部附属植物園)

Explanation of Plates IV & V

Pl. IV. Upper left, *Xylobium bractescens*. Upper right, *Xylobium scabrilingue*. Lower left, *Sobralia rosea* in cultivation. Lower right, *Sobralia rosea* at native habitat.

Pl. V. Upper left and right, *Sievekingia peruviana*. Lower left, *Brassia Keiliana*. Lower right, *Dichaea brachypoda*.

F. MAEKAWA & T. HASHIMOTO: Orchids from Peruvian Andes

F. MAEKAWA & T. HASHIMOTO: Orchids from Peruvian Andes